

令和4年度 学校評価（最終評価）

徳島県立池田支援学校美馬分校

教育目標	重点目標	活動計画と評価指標		評 価		学校関係者の意見	次年度に残された課題
		活動計画	評価指標	活動計画の実施状況と評価指標の達成度	総合評価(評定)		
1 生徒一人一人に応じた学習や生活する力の向上	<p>生徒一人一人のニーズに応じたキャリア教育の推進 【総合支援課】</p> <p>(1) キャリアパスポートを活用し、ライフスキルの育成を図る。</p> <p>ICT を活用した学習活動の推進 【教育総務課】</p> <p>(2) 生徒一人一人のニーズに応じた ICT 機器の活用を図る。</p>	<p>(1)-1 年度初めや就業体験後等に、キャリアパスポートの記録から生徒自身の成長について振り返りをする機会を設定する。</p> <p>(1)-2 外部講師を招聘し、ライフスキルに関する生徒参加型の研修会を実施する。</p> <p>(1)-3 キャリアパスポートに記録する際、生徒自身がライフスキルに係る目標を立て、評価を行う機会を設定する。</p> <p>(2)-1 タブレット端末の様々な機能を知る機会を設定し、学習や生活を支援するためのツールとして活用する。</p>	<p>(1)-1 前後期就業体験後、進路相談前の3回、2年生は年度初めや前後期就業体験後、進路相談前の4回、3年生は就業体験後やサポート会議前の3回程度設定する。</p> <p>(1)-2 生徒参加型のライフスキルの育成に関する研修会を1回以上実施する。</p> <p>(1)-3 ライフスキルに係る目標を設定し、達成した生徒が70%となる。</p> <p>(2)-1 学習や生活を支援するためのツールとしてタブレット端末を活用した事例が、3つ以上となる。</p>	<p>(1)-1 前後期就業体験後、進路相談前の3回、2年生は年度初めや前後期就業体験後、進路相談前の4回、3年生は就業体験後やサポート会議前の3回、それぞれの学年で実施することができた。</p> <p>(1)-2 6月22日香川大学坂井教授に來校していただき、「あなたたちの人生のための生き方の技能」という題名で、生徒参加型のライフスキルに関する研修会を実施した。終了後の生徒の感想には、「前向きな気持ちになれた」「これからがんばりたい」等が記された。</p> <p>(1)-3 全生徒31名のうち登校日数が少なかった3名は、目標設定や実践の機会を持つことができなかった。しかし、残り28名は目標を設定して実践を行い、このうち目標を達成した生徒は71%だった。</p> <p>(2)-1 学習や生活を支援するためのツールとして、生徒一人一人のニーズに応じて、次のようにタブレット端末を利用した。音声入力機能を使用する。JRの時刻表やZoomのIDを手書きでメモする代わりにカメラ機能で撮影する。読み上げ機能により用件を伝える。</p>	<p>【A】</p> <p>キャリアパスポートの活用は2年目となり、進路を考える上で、本人の思いを整理する便利なツールとなっている。</p> <p>生徒参加型の研修会により、生徒は大学教授から教えるという貴重な経験を得た。自分自身を知り主体的に生きるということについて考え、学ぶことができた。</p> <p>ライフスキルの目標を視覚化することで、進む方向が明確になり、達成に向けて努力する姿が見られた。</p> <p>各領域・教科において、日常的に ICT 機器の活用が進んだ。生徒自身も積極的に利用していた。</p>	<p>・全体として、学校の取組は、4月よりさらに充実した。特にキャリアパスポートの活用に関する報告がよかった。</p> <p>・携帯電話・スマホを介しての生徒指導上の問題が生じているが、ICT活用の観点から、それらは身近なアイテムである。便利なツールとして教員と生徒が一緒に学ぶスタイルを模索してもよいのではないか。ツールの活用は、人がつながる上でとても大事なことになってくる。</p>	<p>・キャリアパスポートを活用して、学習活動の振り返りをどのように効果的に行うかを検討する。</p> <p>・ICT機器の活用を促進し、外部講師による生徒・教員向けの研修会を開催する。</p>
2 教職員の専門性・資質・指導力の向上	<p>人権意識を育てる生徒指導の充実 【教育総務課】</p> <p>(1) 自己肯定感を高める授業を実践する。</p> <p>【高等部】</p> <p>(2) 人権擁護に関する知識・技術を育成するため、消費者教育を推進する。</p>	<p>(1)-1 人権教育に関する研究授業及び授業研究会を実施し、共通理解を図る。</p> <p>(1)-2 作業学習において、作業記録日誌をとおして、生徒に「できた」をフィードバックする。</p> <p>(2)-1 成年年齢引き下げに対応するため、消費者トラブル防止に関する研修会を計画実施する。</p> <p>(2)-2 消費者教育に関する指導内容や教材等の情報を収集し、生徒の実態に合わせた授業を実施する。</p> <p>(2)-3 教員対象に、消費者教育に関する知識や指導技術の向上についてアンケートを実施する</p>	<p>(1)-1 年に1回以上、研究授業及び授業研究会を実施する。</p> <p>(1)-2 作業記録日誌において、学年末の自己評価が高くなっている割合が80%以上となる。</p> <p>(2)-1 外部講師を招聘し、若者の消費者トラブル防止に関する研修会を1回以上実施する。</p> <p>(2)-2 消費者教育に関する授業を、各学年において年間1回以上実施する。</p> <p>(2)-3 アンケートを実施し、消費者教育に関する知識や技術が向上したと感じる教員の割合が100%となる。</p>	<p>(1)-1 9月16日に人権教育に関する研究授業及び授業研究会を実施した。</p> <p>(1)-2 作業記録日誌をとおして、生徒に「できた」をフィードバックしたことにより、学年末の自己評価が高くなった割合は88.1%となった。</p> <p>(2)-1 7月4日鳴門教育大学坂本教授による「特別支援学校高等部での消費者教育」を題材にした研修会を教員対象に実施した。消費者庁から出されている教材の紹介や、知的障がい者のトラブルの現状等を知ることができた。</p> <p>(2)-2 生活単元学習・家庭・職業・数学の授業で、各学年2～4回消費者関連授業を実施できた。数学の買い物学習やみまカフェでは年間を通して指導を実施した。</p> <p>(2)-3 教員対象のアンケートを実施し、研修会や教材研究・授業実践などを通して、知識・指導技術の向上を実感できた割合が、100%であった。</p>	<p>【A】</p> <p>研究授業では、防災学習をとおして、災害を自分事として考えること、人と協力すること、自分の意見を伝えること等を学んだ。授業研究会では指導のあり方や人権教育の推進について助言をいただいた。</p> <p>研修会を受けて、教員の消費者教育に対する知識を深めることができた。また、具体的に教材の活用についても学ぶことができた。成年年齢引き下げを受けて、各領域・教科を関連付けて消費者教育を取り入れ、指導することができた。</p>	<p>・コロナ禍における創意工夫を凝らした教育活動がすばらしい。</p> <p>・コロナ禍における教育活動の自粛や制約は、生徒に大きな影響を及ぼした。</p> <p>・できる、できないにこだわらず、「チャレンジ」を進めてほしい。失敗を恐れないことを伝えてほしい。</p>	<p>・コロナ後の安心・安全な学校教育活動に向けた取組の充実を図る。</p> <p>・教育活動を通じて、自己の将来について考え、自己を見極める力をつける指導を行う。</p> <p>・具体的な指標設定を行う。</p> <p>・「わかったこと・認められた経験」を積み重ねる教育を続け、自尊感情を高める取組に対する評価の在り方を検討する。</p>

<p>3 家庭・地域・関係機関との連携・協働をおとした学校づくり</p>	<p>地域と連携した教育活動の推進</p> <p>【総合支援課】 (1) 地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的機能を発揮し、教員研修の充実を図る。</p> <p>【高等部】 (2) 地域との連携をさらに深めるため、地域貢献活動を拡充する。</p> <p>【学校生活課】 (3) 地域と連携した防災活動を拡充する。</p>	<p>(1)-1 地域の教育委員会と連携し、小中学校の特別支援教育に関わる教職員を対象とした研修会を実施する。</p> <p>(1)-2 地域の特別支援教育に係る専門性の向上を図るため、小中学校の教職員を対象とした研修会を実施する。</p> <p>(2)-1 SDGs の学習をとおして、自分たちができる地域貢献活動を考える機会を設定する。</p> <p>(2)-2 令和4年度全国高校総合体育大会に向けて、地域と連携した高校生活動に参画する。</p> <p>(2)-3 生徒対象に各活動の事前・事後のアンケートを実施する。</p> <p>(3)-1 地域防災に関わる事項について、生徒・地元自治会の方々・教員の参加する研修会を実施する。</p> <p>(3)-2 防災研修の参加者を対象に、アンケートを実施する。</p> <p>(3)-3 学校が避難所になった場合を想定し、災害備蓄食料品の試食を行う。</p>	<p>(1)-1 地域の小中学校の特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任、支援員及び助教員を対象とした研修会を2回以上実施する。</p> <p>(1)-2 地域の小中学校の教職員を対象とした公開研修会を1回以上実施する。</p> <p>(2)-1 学習をとおして計画した地域貢献活動を6回以上実行する。</p> <p>(2)-2 地域住民に広報するため各種イベントに参加するとともに、草花装飾栽培を進め、会場を彩るための花を提供する。</p> <p>(2)-3 アンケートの分析結果から「地域において自分は貢献できている（自己有用感）」と感じている生徒が80%となる。</p> <p>(3)-1 地域の防災情報に詳しい外部講師を招聘し、地域の避難所の場所や収容可能人数などの具体的な内容を学ぶ研修会を、2回以上実施する。</p> <p>(3)-2 アンケートにおいて、地域防災に関する知識や理解が進んだと答えた割合が、80%以上になる。</p> <p>(3)-3 グループに分かれ、避難状況に似せた状態で備蓄品を作る状況を設定する。事前に示された手順通りに災害備蓄食料品を調理し、試食することができる生徒が80%以上になる。</p>	<p>(1)-1 美馬市教育委員会より依頼を受け、特別支援教育担当者を対象とした研修会を計5回実施した。また、地域の学校等からの依頼で4回、県からの依頼で3回の研修を行っている。参加者からは専門的な知識を学ぶ機会になったと感想があがっている。</p> <p>(1)-2 精神科医の中村氏を講師に迎え、公開研修会を実施した。子どものこころの問題について、科学的事実とともに、事例や実践について触れた内容であった。事後のアンケートでは、全ての参加者が「とても満足」「やや満足」を選択している。</p> <p>(2)-1 地域貢献活動として、お接待イベント2回、みまの日の清掃活動2回、JA美馬との交流4回、近隣施設の清掃活動7回の計15回実施した。</p> <p>(2)-2 高校生活動として、プランターの草花装飾や、記念品作り、近隣地域やみまカフェでのチラシ配布、総合開会式での接待係など、それぞれの役割を果たした。</p> <p>(2)-3 各地域貢献活動の事前事後で意欲がどう変化したかを集計し、活動意欲の向上、あるいは高い意欲を維持できた割合が94.3%であった。体験回数を重ねるごとに、意欲の向上が見られ、「喜んでくれて嬉しかった」「疲れたがきれいになって良かった」「地域の役に立てた」「自分の役割を達成できた」など、地域貢献への達成感を感じる感想が多く見られた。</p> <p>(3)-1 地元自治会やアイリスの職員の方々に御参加いただき、外部講師を招いた研修を5月に実施した。美馬市ハザードマップの活用法や地域の避難所について学んだ。9月には、外部講師を招き、「避難所受付お手伝い体験ゲーム」を通して学習を進めた。10月には、体育館において間仕切りを使った避難スペース作りを体験した。</p> <p>(3)-2 研修後のアンケートにおいて、「地域の避難場所や収容人数など、地域防災の知識や理解が深まった」という肯定的な答えが80%以上あった。</p> <p>(3)-3 生徒の80%以上が事前に示された手順通りに、発電機を使って沸かした湯で災害備蓄食料品を調理し、試食することができた。地元自治会やアイリスの方々にも御参加いただいた。</p>	<p>【A】</p> <p>地域からの特別支援教育に関する多くのニーズに応え、センター的機能を発揮することができた。地域に出向くとともに、本校においても公開研修会を開催することで、地域の教職員に対して、特別支援教育における専門性の向上に貢献することができた。</p> <p>従来からの活動とともに、今年度は新しい活動も実施することができた。地域の方々とのつながりを一層深めることができ、全国高校総合体育大会関連では、全生徒が総力を挙げて取り組んだ。学校で学んだ知識や技術を、学校外でも発揮することができ、地域の方々から喜ばれ、感謝の言葉も多くいただいた。アンケート結果からは、生徒たちの自己有用感が高まったことが明らかとなった。昨年度は、避難訓練とその後の防災学習に、アイリスの職員の方々と自治会の方々に参加していただいた。今年度はそれに加え、防災研修会にも御参加いただいた。防災活動を、地域住民と一緒に進めることが定着した。</p>	<p>・教育目標を達成させるための事前・事後のアンケートによる目に見えぬ評価を行う等の変容が素晴らしい。</p> <p>・地域貢献活動により、どのような力を付けることがねらいなのか。地域貢献活動をする事そのものが目的ではなく、活動をとおして、「この力を高めた」「このような力がついた」ということを入れていただきたい。</p> <p>・生徒の変容を目的とした目標を設定する。地域貢献活動により、どのような力をつけたのかを具体的に示す。</p> <p>・地域のニーズに応じた特別支援教育のセンター的機能を発揮する。</p> <p>・地域のニーズを踏まえ、生徒の実態に応じた地域貢献活動を推進する。</p>	<p>・活動の事前と事後において、生徒の変容がわかるよう、今後もアンケートを用いた評価を継続する。</p> <p>・生徒の変容を目的とした目標を設定する。地域貢献活動により、どのような力をつけたのかを具体的に示す。</p> <p>・地域のニーズに応じた特別支援教育のセンター的機能を発揮する。</p> <p>・地域のニーズを踏まえ、生徒の実態に応じた地域貢献活動を推進する。</p>
--------------------------------------	---	--	--	--	---	--	---